



最先端のICT(情報通信技術)の提供

ICTを活用し健やかな暮らしを支える社会をめざして

ICTを利用して高齢者の安否確認サービスを提供している美馬市は、新たに総務省の地域情報通信技術利活用推進交付金を活用し、NTT西日本と健康管理面で活用するシステムの実証実験を開始しました。

医療面で活用するシステム導入の背景

徳島県の西部に位置する美馬市は、2009年度の高齢化率が約30%、糖尿病による致死率が県内でワースト2位(徳島県は全国ワースト1位)という状況であり、少子高齢化が進む中で、医療費負担が財源を圧迫しています。このため、すでに基盤整備済みのFTTH※1を積極的に活用し、地域住民に「健康・安心」を提供することを目的に、高齢者の見守りや壮年期の健康管理、遠隔医療に貢献するシステムを構築し実証実験を2010年7月から開始しました。

FTTHを利用した3システムの概要

高齢者の見守りシステムは高齢者の独居世帯を対象に、携帯型緊急通報装置と動きを検知する安否センサーを設置しています。センサー情報は全戸整備済みのブロードバンドネットワークを介して、市役所のサーバーに蓄積します。携帯型緊急通報装置が押下されれば、コールセンターに通報されるとともに、センサー情報に異常があればコールセンターにアラームで通知され安否確認を行います。包括支援センターでは今回導入した多機能テレビ電話を利用して、対面で密接なコミュニケーションを図ります。

健康管理支援システムは、壮年期の住民を対象に、

利用者宅に体組成計、血圧計、尿酸値計と多機能テレビ電話を設置しIP告知端末※2と接続します。日々測定したバイタルデータ※3は無線告知端末を経由し、ブロードバンドネットワークに接続した市役所のサーバーに蓄積されます。保健師や医師は定期的に多機能テレビ電話で利用者とデータを共有しながら対面で生活指導ができます。

遠隔医療システム基盤は美馬市山間部の診療所と県域の中核病院をネットワークで接続し、診療所の医療機器を使って撮影したX線画像を共有することにより、医師が判断を行えるような基盤を構築します。

今後の予定

美馬市においては、利用者、保健師の意見を反映し、健康管理システムの改善を行います。また、体組成計と血圧計のみを利用した簡易型を試験導入して普及を進めていきます。

NTT西日本はICTを活用し、各システムのさらなる機能向上、利便性向上をめざして、引き続き「健康・安心」の支援に努めてまいります。

- ※1 Fiber To The Homeの略称。光ファイバーを伝送路として一般個人宅へ直接引き込む網構成方式
- ※2 有線放送、オプティック通信に代わってIP網を利用して告知放送を行うもの
- ※3 体重、体脂肪、血圧、尿酸値の健康情報データ

【見守り】

安否センサーで人の動きを検知して見守りを行い、生活指導や異常の発見をサポートする。

【健康管理】

家庭で、血圧・体組成・尿酸値等を測定しデータを医師・保健師等へ提供して、健康管理をサポートする。

【遠隔医療】

健康管理データを活用し、多機能テレビ電話による遠隔検診をサポートする。また中核病院との連携をサポートする。

